



1_小原分団による操法練習 2_海老名市からの支援物資をトラック協会が輸送 3_東北電力による停電復旧訓練 4_土壌作成訓練には深谷小児童も参加 5_本郷第1、第2、寿町、寿山の婦人防火クラブによる炊き出し訓練 6_段ボールベッド設置訓練に参加した福岡中学生

地域の状況に応じたさまざまな訓練を実施！ 平成28年度 白石市総合防災訓練

Interview 今年の防災訓練の感想や今後の課題を伺いました。

防災意識の向上を実感

上郡山第一自治会長 **高子 正一さん**

今年の訓練には、指定避難所の白石工業高校に高齢者や子どもを含め自治会から120人以上が参加しました。グループホームからの参加もあり、地区住民の防災への意識の向上が感じられました。今後は地震以外に河川の氾濫を想定した避難訓練も必要だと考えています。



コミュニケーションを大切に！

本郷第一婦人防火クラブ **梶川タミコさん**

婦人防火クラブのみで炊き出し訓練を行うのは初めてでした。4地区のクラブの協力で400個のおにぎりを作ることができました。こうした訓練を継続することで、いざ災害が起きたときにも対応できると思います。何より大切なのは、日ごろのコミュニケーションだと感じました。



白石市長
馬場 康静

東日本大震災の発生から5年が経過し、震災で経験した教訓を生かすべく、すべての地区において、自主防災組織や自治会、小中学校などの指定避難所の施設管理者、そして市職員が連携した、指定避難所の開設・運営訓練を実施しました。訓練の参加者は3,000人を超え、市民の皆さんの防災への意識、関心の高さが感じられました。

今年度も、災害時の人的被害の早期発見を目的とした「安否確認フラッグ」を使用した

訓練や、自衛隊や消防署、警察署などの協力機関による各種訓練を実施しました。さらには、姉妹都市の海老名市から支援物資の提供をいただき、防災訓練で配布するなど、広域的な協力体制の強化を図りました。

今後も震災の教訓や訓練の成果や反省を踏まえ、多様化する災害に備えるべく、大雨や土砂災害を想定した訓練も取り入れるなど、災害に強いまちづくりの推進を目指してまいります。皆様のご協力をお願いします。

県 民防災の日にあたる6月12日、平成28年度白石市総合防災訓練を市内の指定避難所などで実施しました。「午前8時、宮城県南部で震度6弱の地震が発生した」という想定のもとに、各自主防災組織や自治会が独自にシナリオを作成し、「避難・安否確認訓練」や「避難所開設・運営訓練」、「初期消火訓練」などさまざまな訓練を行いました。

市では、防災メールにより直ちに市職員を非常招集し、午前8時24分に災害対策本部を設置。防災無線で各地区公民館などから施設被害状況や職員の参加状況などが報告されました。各自主防災組織や各自治会では、一時避難場所へ避難した段階で、昨年度全戸に配布した「安否確認フラッグ」を活用して地域住民の安否確認を行い、その後、指定避難所への避難や被害状況の調査などを開始。市職員は「初動マニュアル」に基づき、情報収集や伝達、避難経路確保、各自主防災組織・各自治会と連携して避難所の開設・運営を行いました。

白石市では、平成26年度から、各地区で一時避難場所への避難訓練と市内すべての指定避難所の開設・運営訓練を行っていました。これは、東日本大震災を教

訓に、災害発生初期期に、地域住民や自主防災組織・自治会の皆さん、指定避難所となる施設の職員などとの連携した訓練を実施することで、迅速で確かな行動と相互の協力体制の確立、地域住民の防災意識の高揚、防災技術の習得を図るためです。

今回の訓練には、各指定避難所などに3,000人を超える市民などが参加。避難所使用スペースの区割りや発電機の設置、避難者受付場所の設置、施設の安全確認や簡易トイレの設置、食料・物資の保管や配布などの訓練が行われました。

また、市民の皆さんによる訓練に加え、東北電力株式会社白石営業所による停電復旧訓練や陸上自衛隊による給水訓練・炊き出し訓練、消防署による初期消火訓練・救命救急訓練が行われました。さらに、災害時の協力協定を締結している三和シヤッター工業株式会社によるシヤッター緊急修理訓練や東北カートン株式会社による段ボールベッド設置訓練なども実施。今年度は、防災協定を締結している姉妹都市・神奈川県海老名市から提供された支援物資が公益社団法人宮城県トラック協会仙南支部による物資輸送訓練で活用されるなど、さまざまな事態を想定した訓練も行われました。